広報
鳥海の里
題字　開成指導課あじさい寮　宇佐美 清 枝

第104号　◆平成11年11月11日
発行　秋田県心身障害者コロニー
保護者会
秋田県由利郡西目町出戸字孫七山
TEL (0184) 33−2255 FAX (0184) 33−2044

西目小学校との交流会

２年前から行われている小学生との交流会。今年は４年生（69名）と栗拾い、いも掘りを通して交流を深めました。

主な内容

＊研修報告……2
＊入所者の高齢化実態調査……3
＊スポーツの秋特集……4〜5
＊地域と共に……6
＊通信プラザ赤光指導課編……7
＊歩人通信……8

研修報告

『育成会全国大会に参加して』

コロニー保護者会理事　小嶋和雄

住みなれた地域で心配のない生活の実現、北の大地から二十一世紀への福祉のかけ橋をという、大会スローガンで、北の都札幌市で七月三十一日、八月一日の両日全国から三千人を超える参加者を集めて開催されました。

この第四八回大会には、国際育成会連盟ドナルド・ウィルス会長、国際委員会ロバート・マーティン本人委員長、支援者デズモンド・コリガン氏が参加された、世界に目を向けた大会でした。本人部会は本人主体で運営されゲストとして、ニュージーランドからマーティン、コリガンの両氏が出席され活発な本人部会になったようです。また分科会のシンポジストとして数名本人がなっており、とてもりっぱなものでした。

新しい法改正により、来年四月より成年後見制度の施行が予定されているが、法律や制度の改正のみによって豊かな福祉社会がもたらされるものでしょうか。私達を取り巻く多くの課題があり、その地域に根差した展開を求める心構えを安彦理事長が述べておりました。

第八分科会権利擁護と高齢者のくらしに出席しました。高村浩弁護士により成年後見人制度とは何か、知的障害者の生活にどう関係するのか、基調報告があり、本人が法律行為をする場合に、補助、保佐、後見という三類型の制度が活かされる。複数の人が後見人になれるし、法人も後見人になれる。この様に権利擁護の場合、ぜったいにミニ裁判所にはなってはいけない。権利擁護とは、ケンカを支援することだ。日本ではともすればどちらでもなく中立という立場を取ることが多いそうです。

シンポジウムには高村弁護士を入れて五名のシンポジスト、一人は本人、この中で朝日新聞社論説委員の大熊由起子氏の「ふつうの生活の大切さ」に考えさせられました。デンマーク等ではノーマライゼーションは障害や病気が重くても、年をとって死が迫っても、普通の生活を送る権利があり、社会はそれを支える責任があるという思想である。ところが日本の福祉は北欧の四〇年前とあまり変わらず、「異常化の福祉」から抜け出していないことを述べ、権利擁護システムの必要性、重要性を教えられました。

国際育成会連盟ドナルド・ウィルス会長より私達の活動の中心は「権利擁護」というメッセージがあり、全日本育成会は、自らを権利擁護団体と認識し、知的障害者とその家族の人権を守ることを最大の使命と自覚していることを表明。困難に立ち向う挑戦者である私達に、夜明け前の不安をとり除く、明るさが感じられる大会でした。

『大阪に負けたらアカン』

白光指導課主事　深井秀樹

大阪府立金剛コロニーへ交換研修に行って来ました。前日に甲子園のライトスタンドで阪神タイガースの勝利に酔い、テンションを上げて14日間の研修に臨んだんですわ。

テーマは地域生活支援。グループでの共同生活は、マンションやアパートでしたが、家庭的な中でみんないい顔をして生活していました。タイムリーなサポートや心のケアなどひとつのチームとして地域生活を支援している、そんな印象でした。また、既成の事業に捕われることなく独自の創意工夫のもとで実践していました。グループホームも17ヵ所をバックアップしており、その他にも自活訓練、自立訓練など自立支援も多方面にわたっています。

秋田も負けたらアカン！我コロニーでも10月よりグループホームがスタート。これからやがな。

大切なんは、人と人とのつながりや思うねん。

金剛コロニーでお世話になった方たちとのつながりを財産として今後の入所者処遇にあたりたい思います。

熱意と誠意だけは負けたらアカンねん。

入所者の高齢化と保護者の世代交代について

赤光指導課課長　塚本勝司

施設入所者の「高齢化・重度化」問題が叫ばれてから久しいが、入所者の高齢化はとりもなおさず保護者の高齢化・世代交代をも意味する。

当コロニーでは平成四年から全面改築が行われ、各園の役割が明確化され現在に至っている。入所者の高齢化に伴い「医療的ケア」も日常の中で大きなウエートを占めてきているが、ここでは今後の対応を考えていくための一つの資料として入所者や保護者（身元引受人）の現状を紹介したい。

①入所者の年代調べ

平成十一年九月現在の年代別状況は図1のとおりであり、50才以上が二八七名で全体の56％を占めている。ちなみに平成元年は一五八名、31％にすぎなかった。特に60代が四〇名から一〇七名と大幅に増加している。

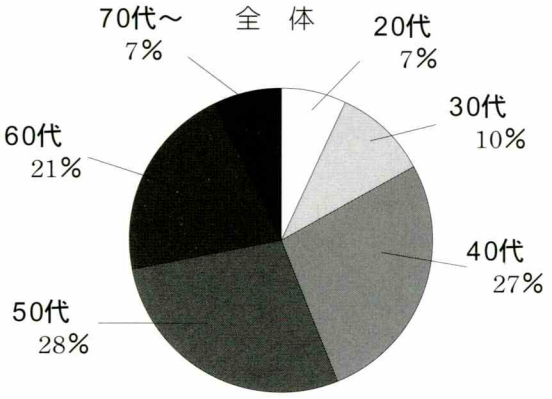
②保護者の状況

表2のとおり平成元年に過半数を占めていた「父母」は平成十一年度には40％を割り、「兄弟」の占める割合が増えており世代交代が進行しているのが分かる。

最後に参考のために平成九年度の入所者の年代別比較を見てみたい。表3がそれであるが、これからも分るように当コロニーが全国と比較し、如何に入所者の高齢化が進んでいるかご理解戴けると思う。

入所者の高齢化に伴い、今後は保護者の世代交代も確実に進んでいくと思われることから、ご家族の皆さんの意思疎通と確実なバトンタッチに期待したい。

〔図1〕
コロニー入所者の年代別状況
（平成11年9月現在）



〔表1〕
入所者の年代区分比較（平成元年、平成11年）

区分	平成元年3月 人数	%	平成11年9月 人数	%
20代	38	8	33	7
30代	155	31	48	10
40代	149	30	133	27
50代	112	22	143	28
60代	40	8	107	21
70代	6	1	37	7
合計	500名	100%	501名	100%

〔表2〕
保護者比較（平成元年、平成11年）

区分	平成元年3月 人数	%	平成11年9月 人数	%
父母	257	51.4	187	38
兄弟	197	39.4	232	46
甥姪	21	4.2	31	6
その他	25	5	51	10
合計	500名	100%	501名	100%

〔表3〕
当コロニーと全国との年代区分比較（平成9年度）

年代	～19才	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	不明
コロニー	2名	36	41	149	145	100	24	3	—
（%）	0.4%	7.2	8.2	29.8	29.0	20.0	4.8	0.6	—
全国	2.7%	24.9	24.8	24.3	15.0	60歳以上 8.2			0.1

秋を満喫

今年度は、コロニー全体での運動会形式を見直し、各指導課ごとにスポーツレクリエーションを開催しました。入所者の体力に合わせた全員参加の種目。これまでとは、一味違った親睦の深まる楽しい一日を過ごしました。

創生・赤光指導課　西公園にて　9/19

お父さん頑張ってェ

ゴール！

車イスの入所者も最高の笑顔で

無・気・味

チャチャチャンチャン　ガンバレー！

銀杏指導課　グラウンドにて　9/19

一気に入れろー！

揺らさないで～

スポーツの

開成指導課（授産）体育館にて　9/23

何を見ているの？早く入れてよ

手をつかいた～い

ナイスポーズ!!

白光指導課 館内にて　9/19

重いけどガマンしてけれ～

息ぴったり！

一番人気の球入れ競争

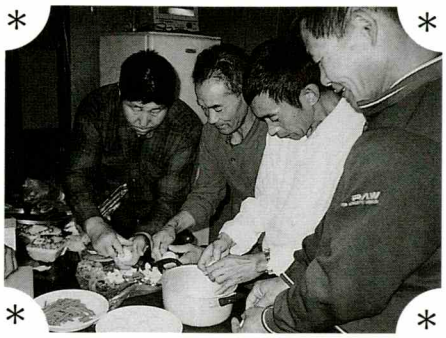
ゆうあいピック しまね大会 10/2~3

開成指導課　あじさい寮　大山　洋子さん
立ち幅跳、50m走で
堂々のメダル獲得にピース!!

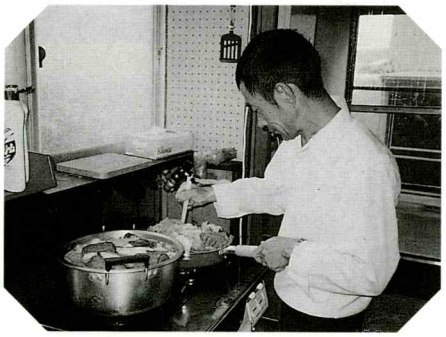
地域とともに

「浜山ハウス」訓練ハウス「きらり」

☆ 浜山ハウス ☆



食事の準備は協力し合って



これぞ男の料理だ
味つけは俺にまかせてくれ！

「浜山ハウス」は、コロニー入所者の方々に、西目町での一般生活を体験してもらうため、今年度5月より西目町浜山地区の一軒家を借りて開設されました。現在ハウスを利用している方は全部で5名。いずれも開成指導課授産棟の入所者が入居し、生活をしています。最初の頃は、コロニーとは違った生活環境に「不安」や「戸惑い」といった言葉も聞かれ、またハウスが国道とJRの線路に挟まれていることもあってか、騒音にも気を遣ったようです。しかし、5ヵ月経った今では、すっかりハウスでの生活にも慣れたようで、掃除や洗濯、食事など、それぞれの役割も決め、協力して生活体験を送っています。日々の食事に関しては、平日の夕食は給食よりおかずがでますが、ご飯、みそ汁は自炊し、みそ汁の具を考えて作っている毎日です。また、休日の食事については、自分達で自炊したり、近隣の店で外食をするなど、本人達が選択して食事をしています。

生活体験もまもなく半年が経過しますが、入所者の中には、これからもハウスに住みたいといった声も聞かれ、「自由」な生活を満喫しております。

☆ きらり ☆

素早く作るのも料理上手の一つ

近頃包丁さばきもあざやかです

＊浜山ハウス＊

＊きらり＊

現在、西目町内にある女性のハウス「きらり」には白光指導課と銀杏指導課の二名が、地域の方々の協力、理解を得ながら共同生活をしており、そこから自分の職場へと出勤しています。仕事はもちろんのこと、通勤途中、地域の生活の中での様々なことを学んでいます。訓練ハウス同士の交流もあります。

ここで、ある休日の様子を紹介します。女性二人の休日が久々に合い、西目町内の食堂で待ち合わせ、食事した後揃って外出したときのことです。天気も良く、近くのスーパーで自分たちの必要な食材などを買い求めた後、「わかまつ」（九月末まで白光指導課の入所者男性四名が生活していた）に行こうということになり、手土産（非常に暑い日であったため、冷たいジュース）持参で訪問したようでした。思いがけない訪問者に「わかまつ」の人たちは驚きながらも、喜びは隠せないようでした。周囲に目をむける余裕も出てきたこの頃です。

このように施設では得ることのできない様々な生活体験をし、周囲からの刺激を受けることにより、作業意欲、生活意欲へとつながって行くのではないかと思われます。

又、現在外出訓練、宿泊体験などを実施しており、「いつか私も…」と意欲をみせる多くの入所者の姿も見られます。

「わかまつ」はこの十月よりグループホームとなりました。グループホームの生活の様子は次号でご紹介いたします。

通信プラザ 赤光指導課

題字　川崎忠男さん

赤光指導課は、入所定員百名（男五十四名、女四十六名）で、最低年齢が四十九歳、最高年齢が八十一歳であり、平均年齢は、六〇・〇八歳となっています。（平成十一年九月一日現在）

Q. どんな人が住んでいるの？

A. 高齢で知的障害のある方々が住んでいます。

Q. 何をしているの？

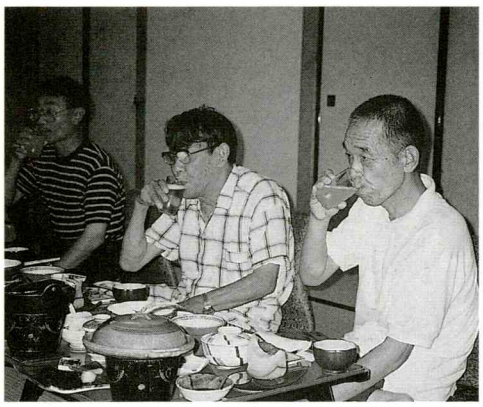
A. 年齢に関係なく、まだまだ身体が丈夫な方は農林や授産で働いています。その方々は作業を労働というよりも、生きがいと感じているようで、毎日生き生きとした表情で出掛けて行きます。その他の方々は、テレビ視聴、音楽鑑賞の他館内を掃除してくれるなど様々です。いずれにしろ、個々の意見を尊重し、豊かで潤いのある生活の実現に努められるよう、入所者、職員ともに頑張っています。

Q. 赤光指導課の特徴は？

A. まずはリサイクル作業です。これは、コロニー内の空き缶や段ボールを回収し、缶つぶし作業（毎週木曜日）を経て、業者にひきとってもらいます。

次に西目小学校との交流会があげられます。平成九年に開始され、年数回、ゲームや農作物の収穫を通して、交流を深めています。

楽しい団らんのひととき



一泊旅行で乾杯！

Q. 一人ひとりの援助は？

A. まず、入所者の皆さんから要望を聞き、内容について検討、できることは早い時期に、できないことはその理由を説明し、納得してもらうようにしています。

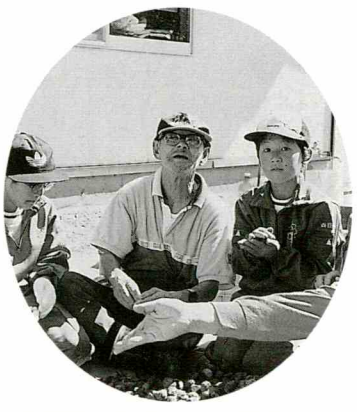
そうした中から出てきたのが家庭への電話や飲酒日の設定、電動車椅子の使用です。

家庭への電話にはオートダイヤル式のテレフォンカードを使用することにより、番号の暗記やかけ間違いを気にする事なく、一人で気軽にかけることができるようになりました。

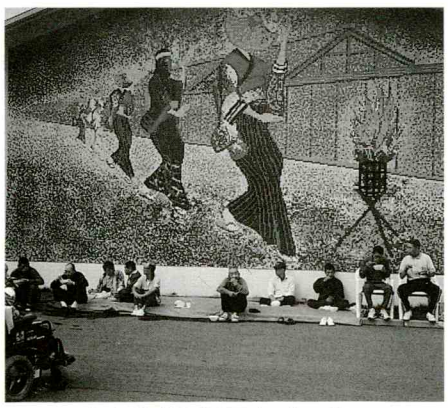
また飲酒日は、自分の体調や飲酒量を調整することができない人もいるため、毎週一～二回、曜日を設定し、夕食後のくつろぎの時間にそれぞれ好きなアルコールを楽しんでいます。

下肢障害の方の外を自由に動き回りたい、そんな思いを実現するために家族と相談し、個人で電動車椅子を購入、本人の障害の状況や要望に合わせ改造を施し、より使いやすいものに仕上がりました。天気のよい日には屋外で友人や職員と楽しそうに会話している所をよく目にするようになりました。本人達は生活空間がより拡大したことに大満足しているようです。

赤光指導課においては、入所者の皆さんそれぞれの生き方を、その人らしく表現していただくための援助を日々心がけております。高齢に伴い、心身の機能低下が心配される状況にはありますが、日課や年間の各種行事を通して、「どのようにしたら質の高い処遇ができるのか、心身の機能をどのようにしたら維持できるのか」など、検討を重ねております。今後は、医療との連携がますます重要になると考えられます。



小学生ともすっかり仲よしに



赤光指導課壁画をバックに

コロニー生産販売所

『歩人』通信

ほっと

去る九月四日、五日の二日間に渡り、「歩人」のイベントを開催しました。

二日間とも、天気に恵まれ、地域の皆様はじめ、沢山の方々でにぎわいました。特に卵、果物コーナーはすぐに売りきれ、他に花・軍手・焼き物なども人気を集めました。

入所者も販売員となり、りんごの生ジュース・かき氷・綿アメなどをサービスし、お客様に「ありがとう」「おいしい」「がんばって」と気軽に声を掛けられるなど、ホットな雰囲気の中で地域の方々とふれあうことができて嬉しく思いました。これからも新鮮でお客様に喜ばれる品物を用意し、いろいろな企画を考えながら地域の皆様に愛される「歩人」にして行きたいと思います。スタッフ一同張り切って皆様の御来店を心よりお待ちしております。

加賀雲峰先生の書道教室

前号からの表紙題字を手掛けた宇佐美清枝さん。月二回の教室をとても楽しみにしており、全日本書写書芸コンクールでも三度入賞している。「先生にほめられると嬉しい」と、ますます意欲を見せる宇佐美さんでした。

「なかなかいいよ」の言葉に満足気な川崎さん

先生の細やかなご指導に宇佐美さんも真剣

今後の行事予定

収穫感謝祭　十一月十九日
年末たのしみ会　十二月上旬
お正月帰省　十二月二十日～一月十日

入所者の動き

《入　所》
十月一日付
銀杏指導課からまつ寮
納谷　和博さん（能代市出身）
柴田　光男さん（田沢湖町出身）
高橋　勝さん（南外村出身）
白光指導課かつら寮
川本　裕介さん（六郷町出身）

《退　所》
九月三十日付
銀杏指導課からまつ寮
佐々木久雄さん（中仙町出身）
新田　正明さん（横手市出身）
宮田　友彦さん（田沢湖町出身）
白光指導課かつら寮
石川　明さん（若美町出身）
以上四名がグループホームへ

ご冥福をお祈り致します

さくら寮　越後谷久雄さん（61才）
ひのき寮　伊藤　好明さん（47才）
みずき寮　湊　猛さんの父　清さん
ふじ寮　佐藤　良子さんの兄　鉄男さん
あじさい寮　三沢　すまさんの母　スワさん